
「中心性漿液性脈絡網膜症に対する低線量光線力学療法の治療成績について」

に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検査結果を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学病院 IRB 委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2021 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日の期間に埼玉医科大学病院を受診し、中心性漿液性脈絡網膜症と診断され、光線力学療法と検査を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

眼科における光線力学療法(photodynamic therapy:PDT)は滲出型加齢黄斑変性(exudative age-related macular degeneration:AMD)に対する治療法として導入されましたが、海外を初めとして、AMD の他に中心性漿液性網脈絡膜症(Central Serous chorioretinopathy:CSC)や厚い脈絡膜に関連する眼底後極部疾患群(pachychoroid spectrum disease:PSD)等の疾患への治療効果が示されてきており、特に CSC に対してはベルテポルフィン量やレーザー照射量を減じた PDT が世界の標準治療となっています。特に PDT による合併症として、脈絡膜毛細管板および網膜色素上皮細胞の萎縮や術後早期の多量網膜下出血等による著名な視力低下が挙げられ、有効でありつつもより侵襲の少ないベルテポルフィン量やレーザー照射量での PDT が望ましいです。そこで我々は、ベルテポルフィン量は通常量で、レーザー照射を 60 秒間に減じられて施行された PDT 症例の治療成績を通して、低線量 PDT 療法についての有効性を検討することを目的とします。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026 年 3 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2025 年 9 月 15 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

年齢、性別、視力、眼圧、眼底検査、光干渉断層計(OCT)、OCT アンギオグラフィー(OCTA)、フ

ルオレセイン蛍光眼底造影検査、皮膚電極多極所網膜電図、血液検査等

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院において、研究責任者である高野 俊一郎が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

中心性漿液性脈絡網膜症と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学病院 眼科 高野 俊一郎、篠田 啓

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院 病院長 篠塚 望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院 眼科 高野 俊一郎

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

Tel : 049-276-1295（土日祝日を除く 8 : 30～17 : 30）

○研究課題名：中心性漿液性脈絡網膜症に対する低線量光線力学療法の治療成績について

○研究代表者：埼玉医科大学病院 眼科 高野 俊一郎